

【今回のテーマ】

『私が見つけたアップサイクル』の宿題の中で、たくさんの発見や取り組みがありました。今回は古田さんが書いてくれた「金継ぎ」と「MOTTAINAI」という言葉についての内容です。




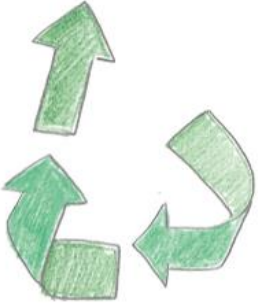
さんが見つけた
アップサイクル

金継ぎ

アップサイクルとは 3年組34番 氏名

アップサイクルとは、本来は捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生することで、「創造再利用」とも呼ばれています。デザインやアイデアによって付加価値が与えられることで、ものとしての寿命が長くなることも期待できるため、製品のアップグレードと捉えることもできます。資源の乏しい日本では、再利用する文化は古くから根付いていました。例えば、陶器などの割れやひびを漆でつなぎ、継ぎ目や金や銀を装飾する伝統技法は、室町時代から行われていたと言われています。
「もったいない」は、今世界の共通言語となった日本の文化です。

アップサイクルとリサイクルの違い。
リサイクルは、廃棄されるものの中から使えるものを取り出し、原料や材料として再利用することです。
廃棄されるものを再利用するという点ではアップサイクルとリサイクルも同じですが、アップサイクルは原料や材料に戻すのではなく、元の製品の素材をそのまま生かすという特徴があります。
私はこれからちょっとでも役立つように、デザインを考えたりなどを少しでもこうけしたいと思います。



「金継ぎ」(きんつぎ)って聞いたことある?

金継ぎとは、陶磁器の割れや欠け、ヒビなどの破損部分を漆によって接着し、金粉などで装飾して仕上げる修繕方法です。

室町時代頃から伝わる日本ならではの技術です。金継ぎは、修繕するだけでなく、金色の線を生かし、新たな美しさを生み出せることが魅力のひとつになっています。

本来は職人技ですが、金継ぎワークショップが開催されたり、初心者むけのキットが販売されるようになったりと、近年、関心が高まっています。

器についた傷を消そうとするのではなく、装飾として新たな表現に変えてしまう発想がユニークですね。手をかけることで芸術的な価値を高める、伝統の中に息づくアップサイクル方法だと言えるでしょう。



(yaunnさんHPより)



アップサイクルで、世界でひとつしかない自分だけの作品に

たとえ元は大量生産の衣服や器だったとしても、アップサイクルすれば世界にひとつしかない新たな個性や美しさが生まれます。時間や手間をかけた分、さらなる愛着も湧いてきそうです。

MOTTAINAI

「もったいない」という日本の言葉が、「MOTTAINAI」というスローガンで世界に発信されていることを知っている人も多いかもしれません。そのきっかけを作ったのは、ノーベル平和賞を受賞したケニア人女性の環境活動家、ワンガリ・マータイさんです。

彼女は2005年に日本を訪れた際、「もったいない」という言葉に強く感銘を受けたと語っています。日本人が抱く「もったいない」精神は、当時すでに環境保護を目指す言葉として浸透していた「3R」の概念以上のものを言い表している、とし、世界に提唱しました。

「MOTTAINAI」という言葉は、今でも、持続可能な循環型社会の実現を目指すスローガンとして掲げられています。

また、クラフト初心者にとっても、一から作るのではなく、既製品のアレンジを通じて自分だけの作品ができるアップサイクルは魅力的です。素材から作るよりもはるかに手軽に、環境への負荷も少なくクラフトを楽しむことができます。最初からお手本のようにうまくいくとは限りませんが、いびつな形もまた自分らしい味わいのひとつとして、新たな価値になります。

捨てるのでもなく、元の形に修復するだけでもなく、
少しずつ新たな価値を足しながら大事に使い続ける。
そんな息の長い「物」とのつきあい方ができるといいですね。